

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2017.9) 平成28年度:57-60.

びまん性軸索損傷の患者が回復するまでの家族の心理過程

石貫 智裕, 浦島 俊, 坂井 千尋, 佐藤 純

## びまん性軸索損傷の患者が回復するまでの家族の心理過程

旭川医科大学病院 救命救急センター

○石貫智裕・浦島俊・坂井千尋・佐藤純

### 目的

びまん性軸索損傷は、患者の社会復帰を難しくしている要因の一つとされているが、A病院救命救急センターでは社会復帰を果たした例があり、これには患者に寄り添った家族の影響が大きいと推測した。先行研究では家族のニーズは明らかにされているが、家族の心理過程に関する研究は少ない。本研究では、その心理過程を明らかにすることを目的とする。

### 方法

びまん性軸索損傷により入院した患者の妻(以下A氏)及び長女(以下B氏)を対象とした。患者が転院して1年程度経過した後に、入院中の家族の思いについて半構造的質問紙及び電話インタビューし、コード化、カテゴリー化した。

### 倫理的配慮

研究の参加への自由意思、個人情報保護、不利益は生じない事を説明した。本研究は、研究者の所属する施設の倫理委員会の承認を得て実施した。

### 結果

A氏は38コード、14個のサブカテゴリー、7個のカテゴリー、B氏は45コード、12個のサブカテゴリー、7個のカテゴリーを抽出した(サブカテゴリーは『 』、カテゴリーを【 】と表記)。サブカテゴリーは主に、『状況がわからない』、『状況のみ込めない』、『先行きを心配する』、『現実を見たくない』、『退院後の不安』、カテゴリーは主に、【状況を受け止められず混乱する】、【絶望感や喪失感】、【葛藤しながらも受け入れようとする】、【先のことを不安に思う】、【患者の回復に対する

喜び】、【周りからのサポートが得られ安心】、【家族のことを考える】が挙げられた。

### 考察

受傷直後の家族は、『状況がわからない』、『状況のみ込めない』様子が見られ、【状況を受け止められず混乱する】心理があった。その後、寝たきりで反応のない患者と関わるうちに【絶望感や喪失感】を感じていたが、徐々に反応をみせる患者をみて、【葛藤しながらも受け入れようとする】家族心理に繋がっていた。また、【先のことを不安に思う】では、受傷直後は『先行きを心配する』気持ちや『現実を見たくない』様子が見られ、患者の回復に寄り添う中でも『退院後の不安』を抱いていた。このように家族が抱く不安は状況に応じてその内容や程度が変化していた。患者の回復期では、家族に【患者の回復に対する喜び】が生じ、家族同士や医療者など【周りからのサポートが得られ安心】していた。一方で、大切な人が意識障害に遭うという同じ経験をした家族同士がその絆を感じたことで、【家族のことを考える】心理も生じていたのではないかと考える。

以上より家族は、まず【状況を受け止められず混乱】し、患者の状況を認識した後は【絶望感や喪失感】を抱えながらも、患者に寄り添い現実を【葛藤しながらも受け入れよう】と努力するようになった。そして、徐々に【患者の回復に対する喜び】や【周りからのサポートが得られ安心】を感じ、家族との絆を感じることで【家族のことを考える】心理過程をたどっていたことが明らかとなった。

# びまん性軸索損傷の患者が回復するまでの家族の心理過程

旭川医科大学病院 救命救急センター  
 ○石貫智裕・浦島俊・坂井千尋・佐藤純

## 背景・目的

びまん性軸索損傷の患者は社会復帰が難しい現状がある  
 意識障害のある患者の、家族の心理過程に関する研究は少ない

救命救急センターでは意識が回復し社会復帰できた例がある

↓  
 家族のサポートが大きく影響しているのではないか？  
 効果的に家族のサポートを引き出すには・・・？

↓  
 びまん性軸索損傷患者の家族の心理過程を明らかにする

## 事例・対象

<事例> びまん性軸索損傷で入院した患者(入院期間3週間)  
 入院時:JCS2桁、従命とれず  
 ER転棟時:JCS2、辻褄の合わない会話、食事摂取可能  
 1週間後:JCS2、会話が可能、訴えを表出できる  
 12日目:初回歩行器歩行

<対象> 家族2名 妻(A氏) 長女(B氏)

## 研究方法

患者が転院して一年程度経過した後に、半構造的質問紙を郵送

返送された内容をもとに、電話インタビューを実施

インタビュー内容を録音・逐語録を作成

家族の心理的側面を述べている部分を抽出・要約

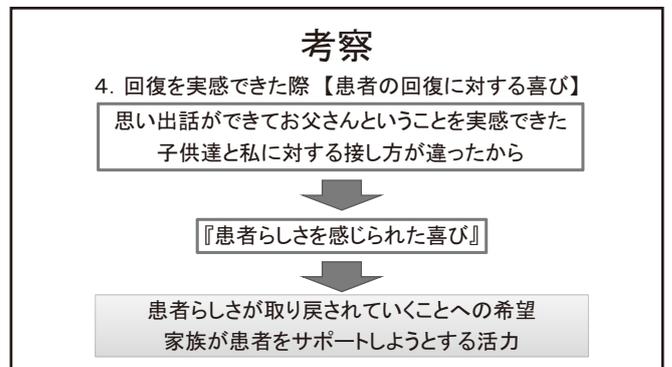
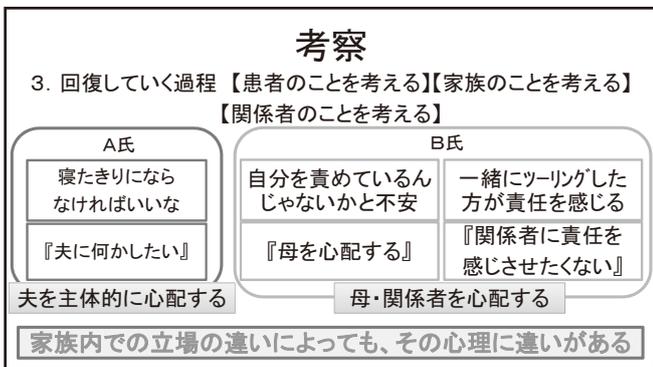
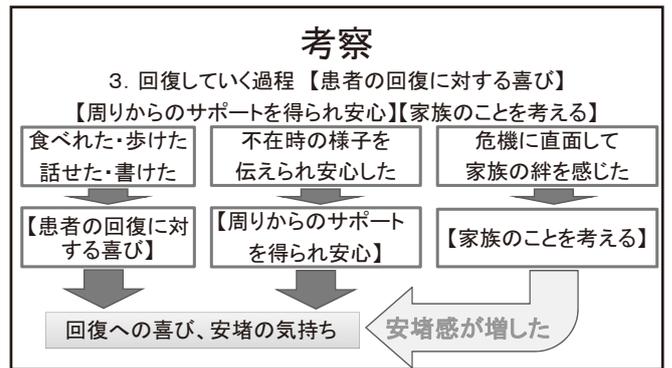
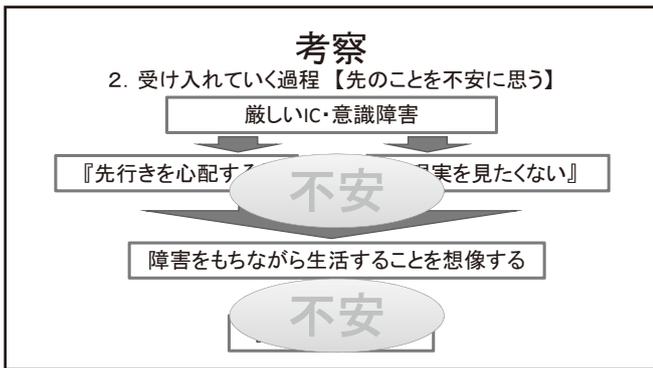
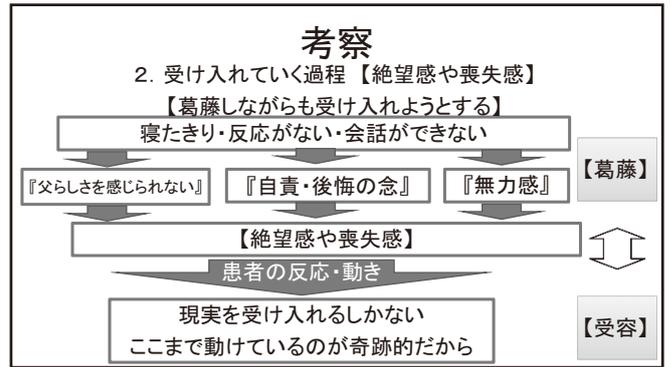
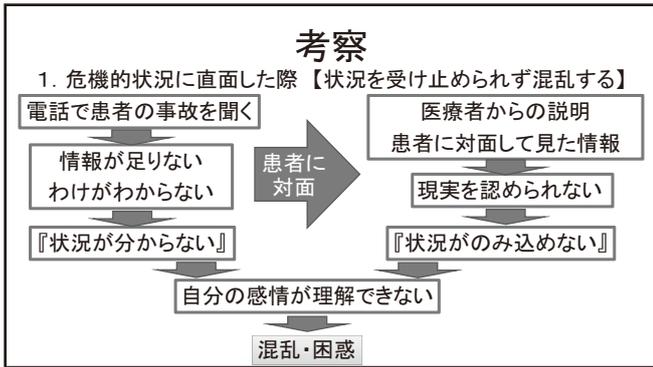
類似した内容をサブカテゴリー化・コード化

## 結果 A氏

カテゴリー	サブカテゴリー
状況が受け止められず混乱する	状況がわからない 状況のみみ込めない 自分では対処できない
葛藤しながら受け入れようとする	現実を受け入れられない 現実を受け入れようとする
先のことを不安に思う	先行きを心配する 現実を見たくない
患者の回復に対する喜び	患者のできることが多くなった喜び 患者らしさを感じられた喜び
周りからのサポートを得られ安心	家族からのサポートを得られ安心する 医療者からのサポートを得られ安心する
患者のことを考える	患者のなっけなくほしくない姿を想像する 患者に何かしたい
家族のことを考える	家族で励まし合う

## 結果 B氏

カテゴリー	サブカテゴリー
状況が受け止められず混乱する	状況がわからない 状況のみみ込めない
絶望感や喪失感	患者らしさを感じられない 自責・後悔の念 無力感
先のことを不安に思う	先行きを心配する 退院後の不安
患者の回復に対する喜び	患者のできることが多くなった喜び 家族からのサポートが得られ安心する
周りからのサポートを得られ安心	医療者からのサポートが得られ安心する 母を心配する
家族のことを考える	患者に何かしたい
関係者のことを考える	事故の関係者に責任を感じさせたくない



## 結論

危機的状況では、家族は状況を受け止められず混乱する



絶望感や喪失感を抱え、葛藤しながら受け入れようとする



患者の回復に対する喜びや、周りからのサポートが得られ安心を感じ、家族のことを考え、支え合って危機に立ち向かうようになる。